

■ 「小中一貫した教育」の視点で見る栗山町の課題 ■

◆栗山町では、「徳・知・体の調和のとれた育ち」を目指しているが、「一貫した教育」の視点で見ると、各校がお互いの教育活動を学び合う中で、その「良さ」を認め、共有し活用し合う姿勢に課題がある。

「教師観」や「指導観」の転換を図る４つの視点

1	2	3	4
9年間を通した子どもの学びのつながり	子ども理解・生徒指導の連続性	教職員間の連携・協働	家庭や地域との関わり

■ 「栗山町教育ビジョン <18施策>」の評価と「栗山型教育」の視点で見る改善策 ■

No.	現 状 や 課 題 （令和5年度）	改 善 策 （令和6年度以降）
[1]〈1〉	▶栗山町立小学校入学の主な対象園（5園） ＊めぐみこども園、いちいこども園、まつば保育園 南幌みどり野こども園、由仁にじいろこども園 ▶令和4年度から町内の3園に働きかけて、教育委員会と3園職員とで研修会を開催するなど、信頼関係の構築に努めている。 ▶全て私立ということもあり、園経営や保育方針に直接かかわっていくことが難しい。	●生きる力の土台となる就学前教育の充実 ◇町内3園との意図的、計画的な交流を図り、信頼と共同の下、栗山型教育の実現に向けた「幼保小連携プログラム」の策定に取り組む。 ◇「架け橋プログラム」「アプローチカリキュラム」「スタートカリキュラム」について、幼保小の教員や保護者を対象とした研修会を開催し、栗山型教育の視点に沿った「総合プログラム」の策定に取り組む。 ◇子どもの様子を相互参観しやすくするよう、オンラインによる授業（保育）参観容易にするシステムの構築を目指す。
[1]〈2〉	▶令和3年度にアプローチカリキュラムを作成したが、各園（特に町内3園）の理解が十分得られていないため、園での活用が進んでいない。 ▶小学校で作成するスタートカリキュラムは活用されているが、アプローチカリキュラムとの一貫的について検証されていない。 ▶家庭教育支援について、保護者向け就学前教育に関する啓発は進んでいないものの、配慮が必要な子どもへの教育的支援については、特別支援教育推進協議会における就学相談を軸として、きめ細かい対応に努めている。	

No.	現 状 や 課 題 （令和5年度）							改 善 策 （令和6年度以降）
[2]〈3〉	▶ R5全国学力・学習状況調査の結果							●確かな学力の育成 ◇小学校の横の連携と小中間の縦の連携を強化するため、学校観の転換を図る必要があるが、校長としては、どうしても自校の学校経営の進捗状況への対応が主になるため、他校との一貫性をイメージしながら経営を進めることに難しさを感じている。このことから、一人の校長が義務教育9年間を見通した学校経営をデザインする「義務教育学校」を創設し、「6・3制」から「4・3・2制」へと学習活動の節目を緩やかに保ちながら、学び合える教育環境を目指す「栗山型教育」を推し進める必要がある。 ◇引き続き、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善」の推進に努める。 ◇「カリキュラム・マネジメント」や「授業改善推進プラン」を再検討して9年間を見通した内容の再編成に取り組む。 ◇科学的に探究する力を伸ばすためのICT活用の拡充に取り組む。特に、「栗山型教育」として、プログラミング教育の推進に向けて地域機関との連携強化を図る。 ◇自分の未来を切り拓く力を育むふるさと教育とキャリア教育の充実のため、幼保段階から、栗山高校や福祉専門学校までを見通しとして選択できる「ふるさと・キャリアプログラム」の作成に取り組む。
	小・国	H29	H30	R01	R03	R04	R05	
	栗山町	75.0	64.0	68.0	65.0	61.0	67	
	全 国	74.8	70.7	63.8	64.7	65.6	67.2	
	差	0.2	-6.7	4.2	0.3	-4.6	-0.2	
	中・国	H29	H30	R01	R03	R04	R05	
	栗山町	76.0	75.0	69.0	61.0	68.0	66.0	
	全 国	77.4	76.1	72.8	64.6	69.0	69.8	
	差	-1.4	-1.1	-3.8	-3.6	-1.0	-3.8	
	小・算	H29	H30	R01	R03	R04	R05	
	栗山町	76.0	60.0	67.0	69.0	60.0	63.0	
	全 国	78.6	63.5	66.6	70.2	63.2	62.5	
	差	-2.6	-3.5	0.4	-1.2	-3.2	0.5	
	中・数	H29	H30	R01	R03	R04	R05	
	栗山町	62.0	65.0	63.0	51.0	52.0	42.0	
全 国	64.6	66.1	59.8	57.2	51.4	51.0		
差	-2.6	-1.1	3.2	-6.2	0.6	-9.0		
*年度ごとや経年変化の結果、学力の定着が不安定である。								
[2]〈4〉	▶「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進については全校が校内研究の課題としているが、着実な成果を上げている学校が見当たらない。							
	▶小学校では、各学校のスタイル（指導方法）で進められているため横の結びつきが弱く、学びの方向性に統一感がなくなっている。また、中学校入学段階で到達すべきラインの設定にも学校間で差が生じている。							
	▶また、小規模校では児童数の減少に伴い、「対話的な学び」や「学びの深まりや広がり」に支障をきたしている。							
	▶中学校では、自校で目指す教育を推し進める気持ちが強いいため、小学校3校が各々6年間で培ってきた学力や学びに向かう姿を中学校で融合し、さらに高めていこうとする学習活動には多くの課題を残している。							

No.	現 状 や 課 題 （令和5年度）	改 善 策 （令和6年度以降）
[3]〈5〉	▶道徳教育の充実については、各校とも、学校生活全体を通して取り組んでいる。 ▶「特別の教科道徳」における指導方法の工夫改善が十分図られていない。	●豊かな心の育成 ◇計画的に講師を招聘した研修の推進に取り組む。 ◇人権啓発活動の充実に向け、「栗山町子どもの権利に関する条例」の普及推進に取り組む。 ◇活動内容の質が学年間で逆転することのないよう、また、学校間で取り組む活動に大きな差が出ないよう、幼児の段階からの発達段階に応じた「体験プログラム」の策定に取り組む。
[3]〈6〉	▶自然体験活動の充実については、社会教育施設等を積極的に活用しながら取り組んでいる。	◇地域学校協働活動により、人材や素材バンクの充実に取り組む。 ◇地域ボランティア体験活動の浸透に向け、「ふるさとキャリア ハローワーク」の創設に取り組む。 ◇「道徳教育」と「ふるさとキャリア教育」のカリキュラム・マネジメントに取り組む。 ◇「福祉教育」について、「栗山型教育」の重要施策と捉え、介護福祉学校との連携充実に取り組む。 ◇個々がもつ優れた能力を高めるための「ものづくり体験」等の企画・運営に取り組む。

No.	現 状 や 課 題 （令和5年度）	改 善 策 （令和6年度以降）																																																																								
【4】〈7〉	▶アレルギー対策の推進等、児童生徒の健康づくりについて取り組んでいる。	●健やかな体の育成 ◇「がんに関する教育」や「歯と口腔の健康づくり」の充実に取り組む。 ◇食育について幼児期からの系統的な「指導プログラム」の策定に取り組む。 ◇アレルギー対策等、命にかかわる事項について、引き続ききめ細かい指導に取り組む。 ◇地域で幼児から成人までを包括して取り組む「地域クラブ」の創設に取り組む、生涯にわたって運動に親しむ態度の育成を図る ◇学校給食による食育効果を高めるため、自校給食の実現に取り組む。																																																																								
【4】〈8〉	▶各学校の実態に応じて、運動能力の向上や運動習慣の定着に取り組んでいる。 ▶R4全国体力・運動能力、運動習慣等調査（質問紙）の結果 <table><tr><th>項 目</th><th>高い</th><th>やや高い</th><th>ほぼ同様</th><th>同様</th><th>ほぼ同様</th><th>やや低い</th><th>低い</th></tr><tr><td>運動が好き</td><td>小男 中男 中女</td><td>小女</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>運動は大切</td><td>小男 中男</td><td>小女</td><td></td><td></td><td></td><td>中女</td><td></td></tr><tr><td>朝食を食べる</td><td></td><td>小女</td><td>小男 中男</td><td></td><td></td><td></td><td>中女</td></tr><tr><td>体育〔中学校は保健体育・以下同じ〕の授業は楽しい</td><td>小男 中男</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>小女</td><td>中女</td></tr><tr><td>体育の授業は進んで学習に参加している</td><td>小男</td><td>小女</td><td>中男</td><td></td><td></td><td></td><td>中女</td></tr><tr><td>体育の授業でICTを使って分かる・できることがある</td><td>小男 中男 中女</td><td>小女</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>体育の授業は生活を健康で明るいものにする</td><td>小男 中男</td><td>小女</td><td>中女</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>体力・運動能力向上の目標を立てている</td><td>小男 小女 中男 中女</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	項 目	高い	やや高い	ほぼ同様	同様	ほぼ同様	やや低い	低い	運動が好き	小男 中男 中女	小女						運動は大切	小男 中男	小女				中女		朝食を食べる		小女	小男 中男				中女	体育〔中学校は保健体育・以下同じ〕の授業は楽しい	小男 中男					小女	中女	体育の授業は進んで学習に参加している	小男	小女	中男				中女	体育の授業でICTを使って分かる・できることがある	小男 中男 中女	小女						体育の授業は生活を健康で明るいものにする	小男 中男	小女	中女					体力・運動能力向上の目標を立てている	小男 小女 中男 中女							
項 目	高い	やや高い	ほぼ同様	同様	ほぼ同様	やや低い	低い																																																																			
運動が好き	小男 中男 中女	小女																																																																								
運動は大切	小男 中男	小女				中女																																																																				
朝食を食べる		小女	小男 中男				中女																																																																			
体育〔中学校は保健体育・以下同じ〕の授業は楽しい	小男 中男					小女	中女																																																																			
体育の授業は進んで学習に参加している	小男	小女	中男				中女																																																																			
体育の授業でICTを使って分かる・できることがある	小男 中男 中女	小女																																																																								
体育の授業は生活を健康で明るいものにする	小男 中男	小女	中女																																																																							
体力・運動能力向上の目標を立てている	小男 小女 中男 中女																																																																									

No.	現 状 や 課 題 （令和5年度）	改 善 策 （令和6年度以降）
【5】〈9〉	▶ 専門家チームによるケース会議や特別支援教育巡回相談等を通じて、個に応じた相談事業の充実に取り組んでいる。	●一人一人を大切に教育の推進 ◇いじめや不登校に対する未然防止策を講じるため、先進地の視察研修や講師の招聘等を実施して教職員の資質向上に取り組む。 ◇「ヤングケアラー」や「子ども食堂」など、子どもの実態に即して組織的に支援する体制づくりに取り組む。 ◇特別支援教育に係る巡回相談事業については、必要に応じて町と北海道特別支援センターとの連携を図る。 ◇一貫教育の視点に基づいた生徒指導連絡協議会を設置・運営する。 ◇ふるさとキャリア教育の一環として、異文化理解や社会参加の積極的参加促進に取り組む。
【5】〈10〉	▶ 道派遣スクールカウンセラー活用事業等、効果的で実効性のある取組を行っている。	
【5】〈11〉	▶ 個々のケースに応じて、迅速・適正な「いじめ・不登校対策」に取り組んでいる。 ▶ 重大事案に対応する組織体制の確立に努めた。	
【5】〈12〉	▶ 個々のケースに応じて、日本語の指導や通訳派遣の検討に取り組んでいる。	

No.	現 状 や 課 題 （令和5年度）	改 善 策 （令和6年度以降）
[6] (13)	▶校内研修等を通じて、学校ごとに教員の資質・能力の向上に取り組んでいる。 ▶各学校で、自校の実態に応じた働き方改革の推進に取り組んでいる。	●<u>教師力の向上と魅力ある学校づくり</u> ◇魅力ある学校づくりについては、幼保から高専までを見据えた一貫性のある考えに基づき、今後、栗山町教育振興会の在り方を検討するなどして、栗山町に研修センターの役割を担う機関を設立する（新しい学校づくりの中では施設内に設置する）。 ◇「栗山型教育」の持続的な推進については、基本、研修センターで企画・運営する。 ◇「学校力向上に関する総合実践事業（道教委）」を活用し、働き方改革の改善に取り組む。 ◇他市町村とも連携しながら、ＩＣＴに関する講座等の開設、講師を招聘しての体験型研修会の充実に取り組む。 ◇古い規格の校舎、体育館の見直しや、再配置を検討することによる教育環境の改善に取り組む。
[6] (14)	▶学校施設の長寿命化計画と学校施設の施設更新に取り組んでいるが、栗山小学校校舎は昭和50年に建築、栗山中学校体育館は昭和45年に建築されており老朽化が進んでいる。 ▶学校環境の整備（学校の計画的な改修）に取り組んでいる。 ▶情報教育環境の整備に取り組んでいる。 ▶家庭におけるネット環境100%に取り組んでいる。	
[6] (15)	▶安全・安心な教育環境について、安全・安心な学校づくり、地域と連携した防災訓練の推進、アレルギー対策の推進等に取り組んでいる。	

No.	現 状 や 課 題 （令和5年度）	改 善 策 （令和6年度以降）
[7] <16>	▶個々のケースに応じて、相談・支援に取り組んでいる。	●家庭と地域の教育力の向上 ◇各家庭や地域と双方向的な連携について意図的・継続的に取り組む。 ◇高齢者や地域の住民の方が気軽に学校に立ち寄って活動できる学舎包括的な教育施設の中に地域学校協働活動の本部を置き、各種活動で学舎融合を図る。 ◇図書館の機能やプール施設等、町民が年齢に関係なく活用できる施設を併設した学校づくりを展望する。 ◇「生活・遊び・学び」の充実を目指して、児童センター事業との融合を図る。
[7] <17>	▶地域力を活用した教育活動の推進に取り組んでいる。	
[7] <18>		